



DXで変わる!

北九州市の企業



目次

はじめに ①

北九州市長メッセージ
FAIS理事長メッセージ ②

デジタイゼーション編
「住機ハウジング」 ③
④

デジタイゼーション編
「ふじた」 ⑤
⑥

デジタライゼーション編
「小倉アジア語学教室」 ⑦
⑧

デジタライゼーション編
「不動産中央情報センター」 ⑨
⑩

デジタルトランスフォーメーション編
「セレーノ」 ⑪
⑫

北九州市ロボット・
DX推進センター ⑬
⑭

はじめに

本冊子では、これまで(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)が運営する「北九州市ロボット・DX推進センター」において、デジタル化・DXを支援してきた事例を紹介します。

「デジタル化」や「DX(デジタルトランスフォーメーション)」という単語を耳にすることは多くなってきましたが、実際には意味を把握している方はまだ多くはないというのが現状です。

各事例の紹介では、取り組みの背景・きっかけや、これからの展望に焦点を当て、読者にとって「自分も取り組めるかもしれない」と思っただけのような構成を心がけました。

皆さまがデジタル化・DXを進める際は、北九州市ロボット・DX推進センターにご相談ください。背景や課題などをお伺いし、適切な専門家を派遣いたします。

なお、各事例はDXの段階に応じて経済産業省が定義する「デジタイゼーション」「デジタライゼーション」「デジタルトランスフォーメーション」に分類して構成しています。下記の説明を各ページと見比べながらご覧ください。

本冊子が皆さまのデジタル化・DXの参考、そしてきっかけとなることを願っております。

デジタルトランスフォーメーション

Digital Transformation

組織横断 / 全体の業務・製造プロセスのデジタル化、
“顧客起点の価値創出”のための事業やビジネスモデルの変革

デジタライゼーション

Digitalization

個別の業務・製造プロセスのデジタル化

デジタイゼーション

Digitization

アナログ・物理データのデジタルデータ化

出典:経済産業省ウェブサイト
(<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201228004/20201228004.html>)
「DXレポート2」の「DXの構造」(経済産業省)
(<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201228004/20201228004.html>)を加工して作成

message



北九州市長
北橋 健治

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン会議やテレワークなどの新しい働き方が浸透してきました。そのような中で企業は、デジタル技術を基盤とした業務プロセスや組織の抜本的な変革、すなわちDXへの対応が求められる大きな転換期を迎えています。

本市では、市内企業のDXを支援する「北九州市DX推進プラットフォーム」を2020年（令和2年）12月に創設しました。現在、300社以上が登録し、デジタル化やDXを進めたい企業とそれをサポートする企業とのマッチングを進めています。また、2022年（令和4年）4月には、北九州学術研究都市内に「北九州市ロボット・DX推進センター」を創設し、企業の皆さまのロボットやIoTの導入や、業務のデジタル化などによる生産性向上や新たな価値創出をワンストップで支援しています。これからも専門家による無料相談に加え、現場派遣から補助金によるサポートまで、切れ目のない支援を実施してまいります。

これらの取り組みは、全国の自治体を対象に、デジタル技術を活用した、地域課題の解決や住民の暮らしの利便性と豊かさの向上、地域の産業振興につながる取り組みを表彰する「夏のDigi田甲子園」における実装部門（指定都市等）にて、内閣総理大臣賞・優勝を受賞したところです。これを機に、市内企業の変革に向けた支援に、より一層取り組んでいきます。

皆さまにはこの冊子に掲載された様々な事例を参考にいただき、それぞれの企業が手がけるデジタル化・DXが進むことを期待しています。



公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）理事長
松永 守央

近年、少子高齢化が進む我が国では、労働力不足が深刻化してきており、その中でも高齢化率の高い本市では、企業活動における生産性向上が大きな課題となっています。また、2020年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、企業は事業継続の危機に晒されました。

一方、最新技術を活用してビジネスモデルを抜本的に変革し、新たな成長を実現しようとする企業も現れてきています。

こうした時代変化の中、FAISでは自立できる産業づくりを進めていくため、2018年度から2022年度末を対象とする第5期中期計画を定め、産業の高度化、活力ある地域企業群の創出・育成に取り組んでまいりました。

2020年7月には北九州市と連携し「北九州テレワークサポートセンター」を創設、コロナ禍に苦しむ北九州市内中小企業の事業継続に対する支援を開始しました。同年12月には「北九州デジタル化サポートセンター」と改称し、テレワークに留まらない広範なデジタル化支援にも取り組んでまいりました。

2022年4月には同センターを「北九州市ロボット・DX推進センター」のワンストップ相談窓口として位置づけ、ロボット導入や5Sの実施についても一本化して相談対応を行う体制を整えています。

この冊子は、これまで進めてきたデジタル化・DX推進の事例を取りまとめ、様々な業種・企業規模における取り組みを紹介しています。また、北九州市内中小企業が活用可能な制度もあわせて紹介しています。これからデジタル化・DXに取り組む企業の皆さまのお役に立つことを切に願っています。



住機ハウジング

矢野さん(左)の丁寧な教え方で「インターネットが怖くなくなった」という山田さん(右)

デジタル化で業務の効率化から生産性の向上を目指す

大手ガス会社のグループから独立した「住機ハウジング」。池田雄二社長と山田美由紀さんの2人で、リフォームを主体に住まいのあらゆることに対応する住宅設備の会社だ。

デジタル化に取り組もうと思ったきっかけは、取引先や行政などへの資料提出における電子化という社会全体の流れに直面したことだ。それに対応する解決策としてパソコンやスマホを活用している。



やり方が分からなかったデジタル化

池田社長はパソコンに触ったこともなかった。顧客対応は電話と訪問で足りていたため、パソコンを使う必要がなかったからだ。パソコンを使用するのは山田さんだったが、経理ソフトの操作や請求書などを作成する程度。ともに60代後半の2人は「デジタル化



行政の入札・公募情報などをネット検索する池田社長

は必要だが、やり方が分からない」と思っていた。

しかし、在籍していた社員が高齢のため退職していき、人的能力だけではこなせない状況になった。

パソコンやスマホ活用し課題解決へ

そんな折、山田さんの目に留まったのが、北九州市ロボット・DX推進センターが進める支援事業のチラシ。「これを使わない手はない」と池田社長に相談し、すぐに申し込んだ。

専門家として派遣されたシステム開発会社「リンクソフトウェア」の矢野宏之さんは、まず同社でのパソコンの使用状況を確認し、次の4点を支援した。

- ① スマホで撮影したリフォーム現場の画像をパソコンに取り込み、プリンターで印刷する方法
- ② Eメールアドレス取得と送受信の方法
- ③ 電子印の作成、使用方法
- ④ Web会議ツールの利用方法

支援を受けたのは、主に山田さん。意欲的で覚えるのも早い。その姿勢に、矢野さんはインターネットでの備品購入なども提案した。



矢野さんが分かりやすくまとめた、スマートフォンの画像を印刷する方法

ネットは楽しく、業務の時間短縮に

矢野さんの支援を受けて「ネットが怖くなくなった」と笑みをこぼす山田さん。以前はクリックしてエラーが出るだけで不安になり、入力した部分が消えたりすることもあって、使うのが怖かった。「矢野さんが分からないことは何度でも丁寧に教えてくれました。

支援者
メッセージ

リンクソフトウェア株式会社
(センター登録専門家)

矢野宏之さん

デジタルに慣れて発想を広げてほしい

依頼内容を確認して最初に打ち合わせしたときは、パソコンをいかに日々の業務に生かせるかという話をしました。

山田さんはとても意欲があり、毎回お伝えしたことは軽く復習する程度で会得していましたし、覚えるのも早かったです。提案したネットでの備品購入ができるようになったのも、ステップアップしていると感じました。

まずはやってみる、という第一歩が踏み出せたのが大きいですね。もっとデジタルに慣れてくればできることが増えるでしょうし、さらに発想も広がっていくのではと期待しています。



リンクソフトウェア株式会社

住所：北九州市小倉北区吉野町10-30-201

事業内容：コンピューターシステムやソフトウェアの開発、ホームページ制作、セミナー運営 ほか

ネットは便利で楽しいことが分かり、これからは設備機器の注文もオンラインでできるようになりたいし、それ以外にもできることを知りたい」と前向きだ。

池田社長は「現場で撮影した画像を工事担当者にスマートフォンで送ることにより、見積もりがすぐに届くようになったことは進歩です。時間短縮できる分、お客さまに向き合う時間にしたい」と意欲を燃やす。

さらに業務の進め方を見直し、ネットやデジタル機器の活用を進めることで生産性の向上を目指している。



動画
公開中



DXで変わる！北九州市の企業
(株)住機ハウジング編



株式会社 住機ハウジング

代表者
代表取締役 池田雄二

住 所
北九州市小倉北区白銀2丁目10-2-111

2021年、大手ガス会社のグループから独立。リフォームを中心に、家の取り壊しなどの相談にも応じる。池田社長はガス消費機器設置工事監督者資格を持つスペシャリスト。現在は女性目線で営業力を発揮する山田美由紀さんとともに、顧客のさまざまなオーダーに对应している。



ふじた

矢野さん(中央)の丁寧な説明を受ける藤田社長(右)と渡邊さん(左)

オンライン商談で販路回復、ネット通販の拡大も視野に

小倉名物のぬかみそだきを製造し、旦過市場の店舗をはじめ、市内外の百貨店やスーパーなどで販売する「ふじた」。2003年の創業当初、旦過市場の店舗内で藤田浩三社長の作るイワシやサバのぬかみそだきの味が評判となり、現在は門司区に本社工場を構え、新商品の開発などにも力を入れている。

2020年春にコロナ禍の影響で販路拡大の商機が絶たれてしまい、藤田社長はオンライン商談を取り入れ、立て直しを図った。



コロナ禍の影響で直接対面の商談できず

北九州食の認定ブランド「百万の息吹」に認定されている、ふじたのぬかみそだき。小倉生まれの食文化を全国に広めようと、北九州商工会議所主催の商談会に出展したり、藤田社長自らが遠方の取引先に出向いたりして販路拡大に努めていた。だが、2020年4月以降はコロナ禍で行動制限が敷かれ、以前のような商談ができなくなった。

藤田社長は商工会議所の商談会がオンラインに変わっているのを見て、「これからはオンラインのシステムが必要になるのかな」と感じた。



本社工場内の製造風景

オンライン会議ツールの使用法習得

取引業者からオンライン商談の要望を受けたこともあり、藤田社長は市の担当から紹介された北九州

市ロボット・DX推進センターの支援事業に依頼した。

専門家としてシステム開発会社「リンクソフトウェア」の矢野宏之さんが支援を担当。パソコンはメールと会計ソフトを使う程度という藤田社長と事務の渡邊陽子さんに、次の内容を支援した。

- ① オンライン会議に必要なアプリ・機材の内容・費用感の提示
- ② オンライン会議ツールのゲスト側、ホスト側の使用方法の説明
- ③ スケジュールや文書の管理、掲示板などのアプリを備えたクラウド型グループウェアの紹介

細かな使用手順を記したメモも用意した矢野さん。それを確認しながら習得していく藤田社長と渡邊さんの意欲を見て、矢野さんは手応えを感じた。



パソコンの前に座る藤田社長と映り方を確認する渡邊さん(右)

デジタル化の必要性を新たに認識

3回目の支援時には、矢野さんの遠隔サポートを受けながら藤田社長と渡邊さんが自らWeb会議を実践。「セッティングがもどかしい状態でしたが、矢野さんに一つずつ丁寧に指導してもらい、つながったときはとても感動しました」と渡邊さんは喜びの声。

藤田社長は「電話でサンプルをお見せすることはできませんが、画面越しなら提示でき、商品の良さが分かりやすく伝わると相手にも好評です。また、取引先の複数店舗への個別説明もオンライン化により

支援者
メッセージ

リンクソフトウェア株式会社
(センター登録専門家)

矢野宏之さん

商談のメリット大きいオンライン会議

お二人とも汎用的にパソコンを使われているということではなかったのですが、オンライン会議ツールもあまりハードルが高くないものを提案しました。新しいものを取り入れようと意欲的でしたし、お二人のように前向きな姿勢の人たちの力になれると、やりがいを感じます。

オンライン会議は、画面越しではありますが、移動せずにその場で会話ができます。藤田社長のように全国各地に出向いて商売されている場合は、移動の費用も時間もかからないので、大きなメリットだと思います。



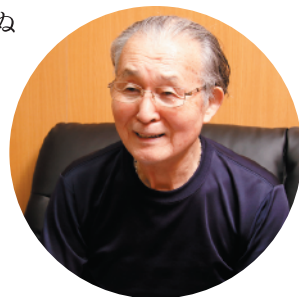
リンクソフトウェア株式会社

住所: 北九州市小倉北区吉野町10-30-201

事業内容: コンピューターシステムやソフトウェアの開発、ホームページ制作、セミナー運営 ほか

効率的に行えて、説明のばらつきを防ぐ効果もあります。これまで取引のなかった地域からも新たに問い合わせいただき、商談が進んでいます」と話し、商売の間口を広げるためにもデジタル化が必要だと認識を新たにしました。

今後はさらにホームページを充実させ、インターネットを通して、守り継がれたぬかみそだきの魅力を全国に発信し、販売増にもつながりたいと考えている。



動画
公開中



DXで変わる! 北九州市の企業
(株)ふじた編



株式会社 ふじた

代表者
代表取締役社長 藤田浩三

住 所
北九州市小門司区松原3丁目4-6

2003年に旦過市場に開いた惣菜店から、ぬかみそだきの専門店へ。保存料を一切使わず、丹念に炊き上げたぬかみそだきは08年に北九州食の認定ブランド「百万の息吹」に認定された。現在は門司区松原の本社工場で製造し、市内外の百貨店やスーパー、ネットなどでも販売。



小倉アジア語学教室

北隅さん(左)からシステムについての説明を受ける王代表(右)

Web予約&オンライン授業のシステム構築で教室再開

中国出身の王琨^{ワンクン}代表が15年ほど前に「中国語を教えたい」との思いから開設した「小倉アジア語学教室」。科目は中国語のほか韓国語、英語、ベトナム語などで、幅広い世代に合わせたタイムスケジュールで授業を展開している。

対面授業が主流の語学教室にデジタル化が必要になったのは、コロナ禍の影響で休業を余儀なくされたためだ。一日でも早く再開したいと、Web予約システムを導入し、オンライン授業を実施した。



コロナ禍の影響で教室閉鎖を繰り返し

新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が発出された2020年4月、外出自粛の行動制限が敷かれた。小倉北区浅野にある語学教室に通っていた高校生から高齢者までの受講生が来られなくなった。一時のことと思い教室を休み、緊急事態宣言解除後の8月から教室を再開したものの、翌年1月には、またもや休業を余儀なくされた。



重要なことはホワイトボードに書いて教えられるオンライン授業

対面授業ができない状況で、王代表はなんとか教室を再開したいと考えたが、どうすればいいのかわからなかった。

「これからはオンライン授業だ」

そんなとき、王代表が目にしたのが、テレビニュースで取り上げられていた北九州市ロボット・DX推進センターの支援事業。「これからはオンライン授業だ」と思い立ち、すぐに依頼した。

専門家として支援を担当したのは、システム開発会社「日本ソフト技研」の北隅彩季さん。パソコン操作があまり得意ではない王代表の要望や現状を確認し、次の点を支援した。

- ① オンライン会議アプリを使った授業、Web予約システムの構築について説明
- ② Eメールアドレス取得と送受信の方法
- ③ 利用可能なオンライン予約サービスの提案
- ④ 活用可能な補助制度の紹介



オンライン授業ではマスクを外して中国語の会話を弾む

当初はパソコンに不慣れで不安だと言っていた王代表が意欲的に取り組む姿を見て、北隅さんはうれしくなることが多かったという。

思いがけないメリットや効果も

北隅さんのサポートを受け、まずWeb予約システムを導入したところ、広範囲の人の目に触れるようになり、思いがけない広告効果が得られた。「幅広い地域や年代の方から予約のメールが届くようになりました。メールはどこに居ても確認できるので便利です」と王

支援者
メッセージ

日本ソフト技研株式会社
(センター登録専門家)

北隅彩季さん

積極的な姿勢がデジタル化をスムーズに

ご相談を受けたときは、対面授業ができずに困っていたので、できるだけ早くオンライン授業を導入できるように考えました。

またパソコンやデジタル化に対して不安を持たれていたため、抵抗感が少なく取り組めるものを提案しようと心がけて説明していました。

王代表はとても前向きですので、分からないことは何でも質問されて、その後の理解も早かったです。積極的に勉強され、興味を持って取り組まれたので、スムーズに進めることができました。



日本ソフト技研株式会社

住所：本社・九州支店／北九州市戸畑区飛幡町2-2 飛幡ビル6階

事業内容：社会インフラシステムの開発・保守支援、業務用アプリケーションの開発・保守 ほか

代表はデジタル化のメリットを実感。

またオンライン授業を実施してみると、期待以上の効果があった。「コロナ禍では対面だとマスク着用が必要ですが、オンラインでは外せます。中国語の難しい発音は口の形も重要なので、オンラインでは口の形を確認しながら教えることができます」。

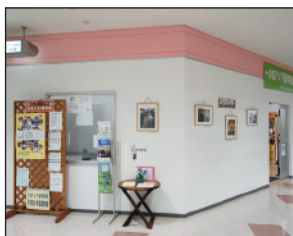
さらにデジタル化に関する知識を深め、いずれは海外の人に日本語や日本の文化を教えたいと夢を膨らませている。



動画
公開中



DXで変わる！北九州市の企業
小倉アジア語学教室編



グローバルオフィスWK/ 小倉アジア語学教室

代表者 代表・中国語講師 王琨

住 所
北九州市小倉北区浅野3丁目8-1 AIMビル2階

中国瀋陽市出身の王代表が15年ほど前に始めた語学教室。当初は王代表が中国語を教え、間もなくネイティブ講師による英語と韓国語、最近ではベトナム語も加わった。地域の公民館に出向いて実施する子ども向けの中国語講座や、国際会議などの通訳や翻訳の業務にも対応している。



不動産中央情報センター

上原さん(右)とオンラインセミナーの実施方法についてディスカッションする楠室長(左)

顧客向けのセミナーや物件内覧、社内会議などにオンライン活用

180人が勤務し、市内外に9店舗を構える「不動産中央情報センター」。賃貸・売買物件の仲介や資産活用といった不動産管理をはじめ、住宅型有料老人ホーム「ゆうゆう壱番館」の運営や浄水器のFC事業など幅広い事業を展開している。

濱村美和社長率いる同社では、以前から業務の課題解決に向けてデジタル化を進めていたものの、新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言が発出された2020年4月以降、加速させる必要に迫られた。



コロナ禍の中で急務となったデジタル化

2019年、課題解決に向けて部署ごとにテーマを設け、3年間のプロジェクトをスタートさせた。社員自らが考えて課題解決に取り組むことが大きな目的で、デジタル化をテーマにした部署もあり、徐々に進みつつあった。

デジタル化が急務となったのは、プロジェクトを始めて1年足らずのこと。コロナ禍の影響で顧客に会えない、社員同士もなかなか会えず店舗間の行き来もできないという状況が発生したためだ。



デジタル化で働き方が広がった同社の業務風景

オンラインでセミナーや情報共有

濱村社長は、顧客向けのセミナーと社内コミュニケーションにオンラインを活用したいと考え、北九州市ロボット・DXセンターの支援事業の利用を決めた。

専門家としてシステム開発会社「タイズ」の上原啓泰さんが派遣され、次の内容を支援した。

- ① オンラインセミナーや相談会を実施するための運用案、必要機材について紹介
- ② オンライン相談会で既存のサービスやアプリを利用する際に考慮する点などを案内
- ③ 社内の情報共有の方針やルール策定の事例、現状分析の方法案などの提供

社内にある課題をはっきりと認識し、短期的に効果を上げられるものと長期的な観点で進めるものが明確に分けられていたため、デジタル化をスムーズに進められたと、上原さんは分析する。



オンライン内覧で顧客に物件を案内するスタッフ

どの世代でも使えれば働き方広がる

オンライン活用の効果は大きかった。不動産顧客向けのセミナーや相談会のもとより、賃貸・売買物件の内覧、ゆうゆう壱番館における入居者と遠方の家族とのiPadを使った遠隔面会なども実施し、コロナ禍でも安心して利用できると好評を得た。社内では全社会議を実施。さらに、旅行会社からの提案で、海外の観光スポットを現地ガイドが案内する社員旅行を開催。社員にデジタルに慣れる機会を設け、苦手意識を

支援者
メッセージ

株式会社タイズ
(センター登録専門家)

上原啓泰さん

明確な目標とイメージでデジタル化進む

オンラインセミナーに必要な機材の提案と、担当者の役割分担などを図式化して紹介し、ディスカッションしました。いかにシンプルかつ

安価にできるか、という点に注力しました。

デジタル化を進めるには「デジタル化によって何を行うか」という明確な目標とイメージがあることが大切です。同社では、まずお客さまの気持ちに寄り添う情報提供のために、デジタルツールをどう活用できるかということを担当者自身が探求されていました。そのような課題をしっかりと認識されていたことが、短期間でデジタル化が進んだ要因です。



株式会社タイズ

住所：北九州市小倉北区浅野3丁目8-1 AIMビル6階
事業内容：情報システムの企画・コンサルティング・開発・運用、ソフトウェアの企画・開発・販売 ほか

払拭させることにもつながった。「20～70代の社員がいますので、全体効率を上げるためにはどの世代でも使いこなせるようになることが必要。当初は戸惑いもあったようですが、慣れるのは早かったです」と濱村社長は振り返る。

さらにデジタル活用で多様な働き方が広がりつつある。育児や介護などで出社が難しい人に任せられるようになった業務があり、濱村社長は「ゆくゆくは身障者も働きやすい環境にしていきたい」と構想している。



動画
公開中



DXで変わる！北九州市の企業
(株)不動産中央情報センター編



株式会社 不動産中央情報センター

代表者
代表取締役社長 濱村美和

住 所
北九州市小倉北区東篠崎1丁目3-13

1974年創業。「不動産業から、くらしサービスへ」を経営方針に掲げ、より心豊かな暮らしと元気な地域社会の実現を目指している。また全国の不動産事業者向けの賃貸管理実務研修など不動産業界の質的向上にも貢献している。



セレーノ

福岡さん(左)と現状の課題についてディスカッションする宮社長(左から2人目)とスタッフ

人時生産性の向上目指し、DXに向けた業務改善進展中

「日本一働きやすいサロンでありたい」。2013年に宮大輔社長が創業し、市内で5店舗の美容室を展開する「セレーノ」。20人のスタッフが、それぞれの生活環境に合わせた働き方で勤務している。

さらに宮社長はスタッフの1時間当たりの粗利益を表す指標「人時生産性^{にんじ}」を向上させたいと、DXに向けた業務改善に取り組んでいる。そのスタートは、スタッフとともに美容業で実現できるDXについての知識を得ることだった。



DXに関する知識が不足していた

「スタッフの幸せ」を経営理念の一つとする宮社長の目標は、人時生産性を上げること。そのためには、業務改善による効率アップと集客につながる仕組みづくりが必要だと考えていた。

折しもコロナ禍で、売り上げは増加傾向にあるものの、利益率は減少。スタッフ間の技術継承も思うように進まなくなっていた。またポストコロナに向けて



「日本一働きやすいサロン」を目指す美容室

事業展開する上でどこをどう改善していくべきか、DXに関する知識が不足していた。

DXは現状の課題解決への手段

そんな状況下、宮社長は美容業においてDXで何ができるのか知りたい、スタッフと一緒に勉強会をしたいと思い、北九州市ロボット・DX推進センターの支援事業の利用を決めた。

勉強会を進めたのは、専門家として派遣されたシステム開発会社「インフォメックス」の福岡勝之さん。3回までは宮社長と幹部スタッフで、4回目は全員でDXについてディスカッションし、次の支援を遂行した。

- ①現状の課題(勤務シフト作成や手書き伝票に手間取るなど)を抽出
- ②①の課題の改善案を検討し、全店共通の印刷伝票を作成、検証
- ③印刷伝票の試験運用の状況確認
- ④幹部主導によるスタッフ全員へのDXの要点説明、意見交換

DXは現状を変えることが目的で、その手段としてデジタル技術の活用がある。福岡さんは回を重ねていくうちに、スタッフの理解が深まっていることを実感した。



試験運用し、全店舗で利用することになった印刷伝票

まずはスタッフ全員の意識改革

「幹部スタッフ主導で進め、現場で一番気になることに着手できたのが良かったです」と宮社長。DXは単なるシステム導入ではなく、スタッフの待遇や労働環境をより良くすることが目的。「スタッフにその意

支援者
メッセージ

株式会社インフォメックス
(センター登録専門家)

福岡勝之さん

いろいろなシステム導入でより効率化を

4回の支援で、「DXとは何か」「DXとITの違いとは」「DXはスタッフのためにするのか、お客さまのためにするのか」といった内容を話していただきました。

宮社長とスタッフの皆さんは普段から業務改善のために何をしなければいけないのかなどの会話をされている土壌があったので、DXに対する認識もずっと入っていったように感じました。

店舗拡大されるのであれば、いろいろなシステムを一気に導入できるし、より効率化も進むのではと期待しています。



株式会社インフォメックス

住所: 北九州市八幡東区東田1丁目5-7 九州ヒューマンメディア創造センター3階

事業内容: 業務ソリューションの提案・提供、クラウドサービス導入コンサルティング ほか

図が伝わり、意識改革できたことは大きい」と手応えを感じている。「印刷伝票を整えたことは一歩前進で、現場から『楽になった』という言葉が聞けました。会計時には、すべてのお客さまへの応対時間が少しずつでも短縮されます。それも人時生産性の向上につながります」。

今後は市内全区で更なる店舗展開を目指し、マニュアルの電子化や、コミュニケーションの円滑化についてもDXを進めていくという。



動画
公開中



DXで変わる! 北九州市の企業
セレーノ(株)編



セレーノ 株式会社

代表者
代表取締役 宮大輔

住 所
北九州市小倉北区鍛冶町1-9-5

「より多くのお客さまに満足を。より多くのスタッフに幸せを」を経営理念に掲げ、宮社長が2013年に創業。リーズナブルな料金設定と来店予約不要の美容室を市内で5店舗展開。働きやすい職場づくりが評価され、2016年に市の「第10回ワーク・ライフ・バランス表彰」で市長賞を受賞した。

北九州市ロボット・DX推進センター

Kitakyushu Robot & DX Promotion Center

北九州市ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX(IoTの導入、業務のデジタル化等)推進をワンストップで支援する機関です。

導入支援、操作体験、人材育成等の取り組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援します。

また、集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たします。



導入支援

— 無料相談・現場訪問・伴走支援 —

産業用ロボット導入やDX推進等に取り組む企業に対し、経験豊富なコーディネーターが相談企業の課題解決を伴走支援します。また、段階に応じて、専門家の派遣や補助金の紹介等ワンストップで支援します。

ロボット等導入支援

生産性向上に意欲的な地元企業への産業用ロボット導入を総合的に支援します。生産現場を訪問し、現状の問題点の洗い出しや、ロボットを用いた生産ラインの自動化の提案を行い、生産性の向上をお手伝いします。

ロボット導入のメリット

- 品質の安定化
- 作業時間の短縮
- 人手不足の解消
- 作業環境の改善
- ロボット人材の育成

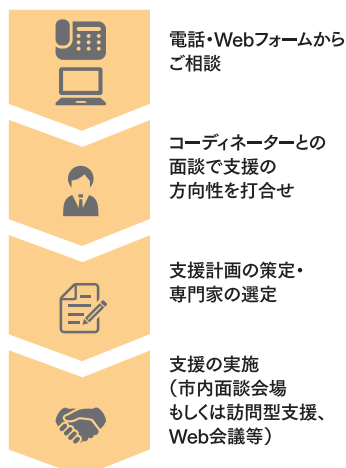
DX推進支援

Web会議やAI・IoT等、ITツールを取り入れた新しいビジネススタイルへの転換を図る企業に対して、専門家を派遣し課題解決を支援します。

DX推進のメリット

- 生産性を最大化できる
- ニーズに合った商品・サービスを開発できる
- 環境の変化にも対応可能に

ワンストップ相談の流れ



【ワンストップ相談窓口】
TEL 093-695-3090

<https://ktq-robodx.jp/>



DX推進補助金

	デジタル化枠	DXモデル育成枠	DXモデル枠
概要目的	中小企業の生産性向上を図るため、市内中小企業が実施するDXの各種取組み経費の一部を補助します。また、申請枠を3段階設置し、中小企業のDX取組み状況に応じた支援を実施します	社内業務効率化から始めたい事業者様向け	ビジネスモデル変革に向けた戦略策定から始めたい事業者様向け
対象企業	市内に事業所を有する中小企業		
交付要件	生産性向上を図るため、当該交付対象者が実施するDXの取組みを支援します		
交付上限	最大80万円(下限20万円)	最大200万円	最大500万円
補助率	対象経費の1/2以内	対象経費の2/3以内	対象経費の2/3以内
対象経費	人材育成・教育経費・製品・サービス・開発経費・システム導入経費・環境整備経費・付帯経費・その他		

本内容は令和4年度実施内容です。最新の情報はWebサイトでご確認ください

ロボットやIoTの導入、活用等を推進する企業向けの人材育成講座やスクール等を開催しており、経営層向け、現場リーダー向け等をご用意しています。また、地元大学生のインターンシップ型アルバイトを行います。

経営層向け

第4次産業革命エグゼクティブビジネススクール (デジタル技術活用支援セミナー)

デジタル技術活用のメリットについて理解を深め、自社の将来像を描けるようになるためのプログラムを実施します。



現場リーダー向け

生産性向上スクール (基礎編・IoT編・ロボット編)

ロボット・IoT・AIの導入について、基礎編から専門的なプログラム(選択制)までを実施します。



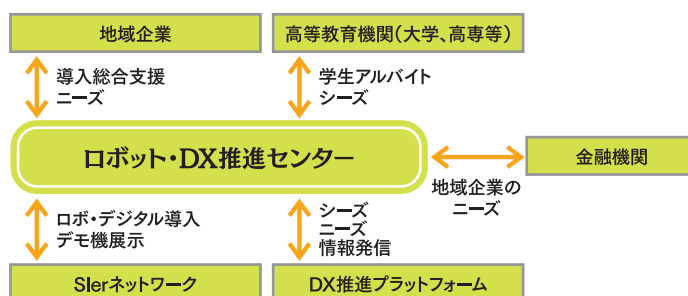
地元大学生の専門知識の活用

専門知識を持つ大学生(九州工業大学)を 活用した有給インターンシップ

ロボット・IoT等の企業の生産性向上に対する課題解決に大学生・大学院生の専門知識が活用できます。同時に学生のスキルアップにもつなげます。



地域企業、Sler、大学、金融機関の集いの場を創出します。
交流会・展示会の実施や
協力企業等によるセミナー・説明会も企画し、
センターが産学官金のハブ機関を
果たすことを目指します。



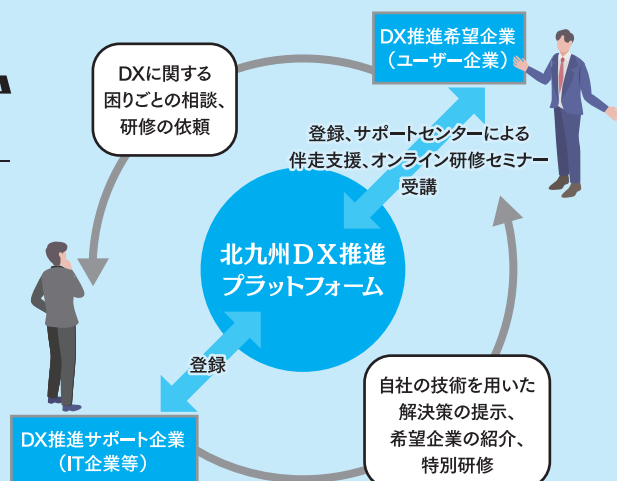
北九州市DX推進プラットフォーム

DX Promotion Platform

—DXを推進したい企業とサポートする企業をつなぐ—

- 企業同士のマッチング
- 労働生産性の見える化
- 先進事例や各種支援制度の発信

入会・年会費無料! 登録はWebページから
<https://kitakyushudx.force.com/DXmain/s/>



ACCESS

北九州学術研究都市へのアクセス



- 【公共交通機関の場合】 ◎ JR折尾駅バス停 → 市営バス・西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約15分
 ◎ 北九州空港バス停 → 西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約80分
- 【車をご利用の場合】 ◎ 北九州都市高速道路 黒崎出入口(黒崎・折尾出口下車) 折尾方面へ → 学研都市ひびきの ※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分
 ◎ 小倉都心 → 北九州都市高速道路 東田出入口 → 黒崎バイパス 皇后崎ランプ → 学研都市ひびきの ※小倉都心からの所要時間約30分



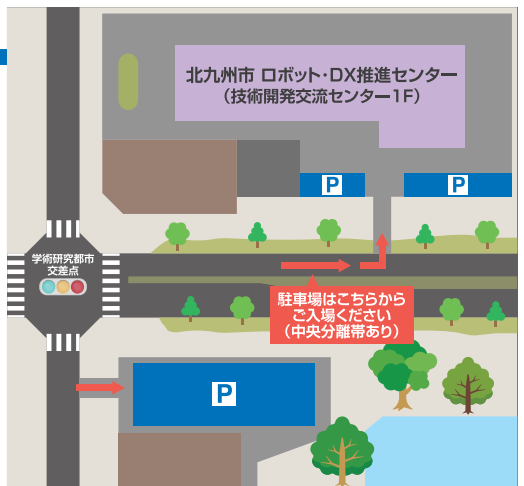
このQRコードを読み取って
 いただきますとGoogle Mapで
 当センターが表示されます

北九州学術研究都市マップ



北九州市ロボット・DX推進センターは
 北九州学術研究都市 技術開発交流センターの1階です
 (黄色い看板が目印です)

駐車場のご案内



建物前および道路の向かい側に来客者用駐車場がございます
 満車の場合は、その他の学研都市駐車場をご利用ください

北九州市ロボット・DX推進センター (運営: 公益財団法人北九州産業学術推進機構<FAIS>)

〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北8-1 技術開発交流センター 1F
 TEL(093)695-3077 FAX(093)695-3667 <https://www.ksrp.or.jp/robo-dx/>

